

〔新刊紹介〕

南丹市立文化博物館編

『南丹市立文化博物館蔵 小出文庫和書目録』

須藤 圭

京都府南丹市園部町にある南丹市立文化博物館が所蔵する小出文庫には、歴代園部藩主であった小出氏によって蒐集されてきた書物を中心におよそ五〇〇点が収められ、貴重な和書や漢籍も多数含まれている。本書は、その和書を主にとり上げて目録化し、あわせて、いくつかについて簡単な解題を付したものである。

小出文庫の存在は、早く井上宗雄氏や加美宏氏、赤瀬信吾氏によって知られていながらも、その研究はほとんどなされていないといつてよい。そうした中であつて、本書の解題では、『寂然集』（函架番号・二二一三四）『鴨長明四季物語』（同・二二一三七）『夏中百句』（同・二二一三八）『方角重宝記』（同・三〇一―一九）がとり上げられ、各々の位置づけが簡潔に示されている。例えば、『寂然集』は定家自筆本の臨

写であることが提示されており、その重要性は明らかである。他にも、小出文庫には、『万葉集』（同・九一―）や『古今和歌集』（同・二二一―二六）『古今和歌聞』（同・二二一―二七）、伝姉小路基綱筆『和歌読方』（同・二二一―三〇）、さらに『藤川百首注』（同・二二一―四一）など注目されるべき書物は多く、いずれも学界に広く知られているものではないため、詳細な比較検討が必要に思われる。さらに、実用的に用いられたと思われる書物もあり、近世以降の園部藩における教育史、あるいは地域史を捉える上でも重要な資料となろう。

主に書名のみを挙げてきたが、何よりも目録である本書がどれほどの意義を有しているかは、これを用いる側に委ねられているといつて過言ではない。本書の刊行を契機として、小出文庫の貴重な蔵書群がより

一層注目され活用が図られることを期したい。その際には、国文学研究資料館の各データベースもあわせて参照されたい。「日本古典資料調査データベース」では、同館が過去に実施した文献資料調査カードが閲覧でき、本書より詳細な書誌情報がえられる場合もある。また、一部は、同館マイクログフィルムでの閲覧が可能である。

なお、小出文庫の調査および本書の執筆には、本学日本文学専攻教授中西健治氏をはじめ、博士後期課程の鈴木耕太郎氏、藤田さほ氏、岸本悠子氏、須藤圭があつた。引き続き、漢籍については、本学中国文学専攻教授芳村弘道氏を中心に調査が行われつつある。

（南丹市立文化博物館 二〇一〇年一月
A4版 七四頁 本体価格五〇〇円）
（すどう・けい 本学博士後期課程/日本
学術振興会特別研究員）